

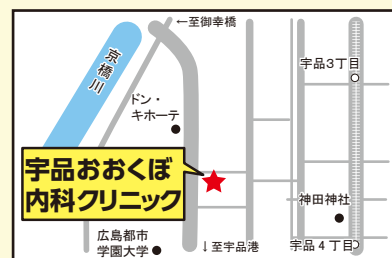
連携医療機関のご紹介



大久保院長

宇品おおくぼ内科クリニック

〒734-0014 広島市南区宇品西3-4-33 3階
電話 / 082-253-5865
院長 / 大久保 博史
診療科目 / 内科、糖尿病、甲状腺疾患



外観

○開業されてから今までのことを教えて下さい。

「宇品おおくぼ内科クリニック」は開業から1年を迎えました。これまでマツダ病院、三原市医師会病院、東広島医療センター、広島大学病院、広島市民病院で研鑽を積み、特に糖尿病や甲状腺疾患といった内分泌疾患の診療を専門としてきました。

宇品エリアには糖尿病や内分泌疾患の専門医が少なく、専門的な医療を提供することで地域医療に貢献したいと考え、開業を決意しました。現在は、糖尿病や甲状腺疾患を中心に、高血圧症、脂質異常症といった生活習慣病を含む一般内科の診療も行っています。

○クリニックの特徴を教えてください。

当院では、患者さん一人ひとりの症状や生活背景に寄り添いながら診療を行うことを大切にしています。生活習慣病は、偏った食生活や運動不足、ストレスなどが原因で発症することが多く、食事療法・運動療法・薬物療法を組み合わせた治療を提案しています。

また、甲状腺を含む内分泌疾患はホルモンの異常による病気であり、代表的なものとして「バセドウ病」や「橋本病（慢性甲状腺炎）」があります。仕事や家庭の都合で頻りに通院できない患者さんも多いため、院内での検査体制を充実させ、一般的な血液検査・生化学検査・甲状腺機能検査・尿検査などの結果を約1時間以内にお伝えできるようにしています。これに

より、診断を迅速に行い、適切な治療につなげることが可能です。

○毎日の診療で大切にしていること、やりがいを教えてください。

患者さんそれぞれの生活パターンに寄り添いながら診療することを大切にしています。病気の早期発見・早期治療を心がけるとともに、他の診療科との連携も重視しています。

例えば脂肪肝は、私の専門分野の患者さんが合併しやすい病気の一つで、肝臓内科の先生と連携しながら診療を進めています。また、同じ疾患でも患者さんごとに症状や治療の必要性が異なるため、一人ひとりに適した医療を提供できるよう心がけています。

○県病院はどんなところですか。

県病院は、高い診療レベルを誇る信頼できる医療機関です。当院から紹介した患者さんについても、詳細な診療報告をいただけるため、安心してお願いできます。また、診断や治療が難しいケースでは、専門的な視点から助言をいただくことができ、大変心強く感じています。

【取材後記】

糖尿病や甲状腺疾患といった内分泌疾患の専門医としての知識を持ちながら、総合内科的な視点でしっかり診療に取り組んでいかれる意思をひしひしと感じる取材でした。今後とも当院との連携を宜しくお願い致します。

県立広島病院広報誌

もみじ



県立広島病院 ☎082-254-1818
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

第195号
2025.5.1
発行



理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

当院は基幹型臨床研修病院として 臨床研修医の育成を行っています!!



今年も新しく15名のフレッシュマンが入職しました。

目指すべき姿は、「医師としての人格を涵養（かんよう）し、プライマリ・ケアを中心に幅広く医師として必要な診療能力を効果的に身につける」「医師としての基盤形成の時期に、患者を全人的に診ることができる能力を習得し、医師としての資質の向上を図る」ことで、2年間様々な診療科をローテーションしながら日々成長し、修了時には第一段階の自立を目指しています。

「涵養」とは、「水が土に自然にしみ込むように、徐々に養い育てる」という意味です。指導医、上級医、指導者（コメディカルスタッフ）が、丁寧に研修医を育て、未来の広島県を担う素敵な医師を育成します。これからも県立広島病院をどうぞよろしくお願いいたします。



当院の研修体制は、卒後臨床研修評価機構から認定されています



ワークショップの発表



グループディスカッション



心肺蘇生の実習

県立広島病院からのお知らせ

5月のがんサロン

- 開催日時 令和7年 5月21日(水) 14:00～15:00
- 場所 新東棟2階 総合研修室及びオンライン
- テーマ 参考にして頂きたい社会制度について～ソーシャルワーカーの経験をふまえて～
- 講師 患者総合支援センター / 田中透 医療ソーシャルワーカー
- 対象 がんを経験された方やそのご家族(当院受診歴不問)
※事前申込が必要です

オンライン申し込み方法

- 二次元コードを読み取り、「がんサロン」申し込みフォームで必要事項を入力ください。二次元コードの読み取りが難しい方は下記メールへ送信ください。
hphkansouc@hpho.jp
- 前日までに招待メールが届きます。

◎締切：2025年5月19日(月)



お問合せ先

がん相談支援センター

☎082-256-3561
hphchiikirenkei@hpho.jp

A decorative banner for a lecture series. On the left, a pink speech bubble contains the text '県病院医師による出張講座！' (Itinerant lecture by county hospital doctors!). Next to it, the title '地域巡回講演会' (Regional Itinerant Lecture) is written in large, stylized pink and yellow characters. To the right of the title is a small photo of a lecture hall with an audience. Further right, the title '外科医の独り言' (Surgeon's Soliloquy) is written in large, stylized orange and white characters, followed by 'no.163' in a white circle. Below this, the subtitle '— 誰の独り言？ —' (Whose soliloquy?) is written in orange. On the far right, a line of text reads '体のあちこちにほころびが出ている私ですが、' (My body has some cracks here and there, but...). The entire banner is decorated with colorful, stylized fish or paper airplane motifs at the top.

県立広島病院では、地域貢献として住民の皆様に関心を持っていただき、検診の重要性や病気に対する最新の知識を理解して頂くため、当院から講師を派遣して行う地域巡回講演に取り組んでおります。がん検診、生活習慣病健診などにより、病気が早期に発見されると治療率も

検診でがんの疑いを指摘されても「自分はがんなのか…？」と怖く感じ、精密検査に行けない方もいますが、こういった講演会でがんや病気の理解を深めることができれば、不必要に恐怖や不安を強く感じることもなく、前向きな気持ちで精密検査を受けて頂くことができると考えています。

この講演会をきっかけに、一人でも多くの住民の方々の健康増進に寄与できるよう、努力していきたいと思います。この講演は行政・医療介護関係者・自治会・民間企業等の依頼により各地域へ出向き、講演を行っております。病院外で先生と身近に意見交換も出来る講演と好評をいただいております。院内掲示板でも広報しておりますので、皆様の御参加をお待ちしております。

◆令和 6 年度開催内容◆

熱中症・脱水予防(高齢者)	楠 救命救急センター長	広島市東区
胃がんについて	東山 内視鏡内科部長	東広島市
高齢者の眼の健康について	穴道 眼科副部長	廿日市市
虚血性脳血管障害について	下永 脳神経外科部長	広島市中区
肺がんについて(予防・検診の必要性)	石川 呼吸器内科主任部長	広島市南区
胃がんについて	藤國 消化器乳腺外科部長	広島市中区
検診で異常といわれたら	岡本 総合診療科部長・中原 肝臓内科部長	熊野町
終末期・看取り期のご本人・ご家族とのコミュニケーションについて	定元 がん性疼痛看護認定看護師	府中町

● お問い合わせ / 患者総合支援センター 地域連携室



講演会の様子

脳心臓血管カンファレンス
 【脳心臓血管センター長（兼）循環器内科主任部長/上田 浩徳】

心不全診療ガイドライン(2025年改訂版)について

本ガイドラインは、日本循環器学会（JCS）と日本心不全学会（JHFS）の合同で策定された急性・慢性心不全診療ガイドライン（2017 年改訂版）と JCS/JHFS ガイドラインフォーカスアップデート版急性・慢性心不全診療（2021 年版）に、最新の知見が取り入れられ、急性期と慢性期をまとめて「心不全診療ガイドライン」として 2025 年 3 月 28 日に発行されました。

心不全の分類は、左室駆出率（LVEF）によって
① HFrEF（LVEF 40%以下；LVEFが低下した心不全）
② HFmrEF（LVEF 41～49%；LVEFが軽度低下した心不全）③ HFpEF（LVEF 50%以上；LVEFが保たれた心不全）と分類されていましたが、本ガイドラインでは、経時的な LVEF の改善は予後良好因子とされるため、初回 LVEF が 40%以下でかつ経過で 10%以上 LVEF が改善し、40%を超える心不全を HFimpEF（LVEF の改善した心不全）として独立した分類に定義されています。心不全のステージ分類（Stage A：心不全リスク、Stage B：前心不全、Stage C：症候性心不全、Stage D：治療抵抗性心不全）では、Stage A に慢性腎臓病（CKD）が

追加されました。HFmrEF と HFpEF の治療に関して、SGLT2 阻害薬と MRA の推奨が、肥満合併心不全の治療には GLP-1 製剤の推奨が追加されました。また、「緊急の治療強化対応、特に生命の危機を回避する治療を必要とするもの」を急性非代償性心不全 (ADHF) と定義し、初期対応から急性期の管理・モニタリング、さらに代償期心不全における包括的管理についても記載されています。心不全の原疾患となる心筋症に対する新たな治療や特別な病態・疾患である心房心筋症、中性脂肪蓄積心筋血管症、高齢者 / フレイル、腫瘍循環器についても述べられています。

その他、運動療法・リハビリテーションや慢性腎臓病・肥満・貧血（鉄欠乏）・認知機能障害／抑うつなどの併存症についても追加され、緩和ケア・地域連携／地域包括ケア・心不全診療における医療の質の評価なども記載されました。

今後、益々増加する複数合併症を有する心不全や高齢者心不全などに対応可能な包括的な診療体制を当院の脳心臓血管センターは目指していきます。



外科医の **独り言**...no.163

— 誰の独り言？ —

年度末のこの異動時期、院内のあちこちで別れの挨拶が飛び交っています。1年のうちでの別れの時期は、何となく寂しい気持ちになります。一方で、1日経てば新年度が始まり、病院の桜と一緒に新しい職員を出迎えることになり、今度はウキウキした気持ちになります。このギャップに年度の変わり目の慌ただしさを実感します。

新しい年度を迎えるにあたって気分一新といきたいところですが、どうも最近五感のうち二感の調子がよくありません。まずは数年前から少しずつ視力が落ちてきて、メガネでは調整できなくなりました。夜間はライトがまぶしくおそらく白内障だろうと自己診断しています。このままでは運転免許の更新も危ういかもれません。そして、半年くらい前からは、耳鳴り（耳の中にセミが住みついています）と会話が聞き取りにくくなってきました。これは単なる老化現象だろうと納得していますが、耳鳴りはストレスが原因とも言います。何がストレスの原因になっているのかは大体予想はできるのですがなかなか口に出して言えません。いずれにしても見えにくい、聞き取れない、耳鳴り、いずれも不愉快な事象です。

今この原稿を書いているのは3月31日で、年度末で異動する医師も多く、外来患者さんもいつもよりかなり少ないということで、耳鼻科と眼科で診てもらいました。もちろん紹介状がない初診なので選定療養費を払いました。付いた診断は、年相応の聴力低下で、補聴器を付けるほどではないとのこと、大事な会議の時だけ付けるならイヤホン型の集音器？をお試しで借りました。眼の方は、やはり白内障ということでしたが、手術してもしなくても良い、中途半端な白内障でしたが、どうしてもすっきりしたいので、近いうちに白内障の手術はしようと思っています。

体のあちこちにほころびが出ている私ですが、「外科医の独り言」は今回で No.163 です。広報誌は月刊なので、13 年以上書き続けています。ただし母親が急逝した時に、原稿の締め切りに間に合わず、1 回だけお休みをいただきました。それ以外は月末になると何を書こうかとそわそわしながら、何とか締め切り厳守で連載を続けてきました。しかし、読者の皆さんももうお気づきのことと思いますが、ここ数年どうも面白い独り言が書けなくなりました。面白くないという自覚もあります。ただ、これまで連載してきた内容は、すべて事実であってネタではないので、今の状態を「ネタ切れ」とは言いません。書く事実が無くなった、すべて書き尽くしたと理解して頂いたら良いと思います。

院長になって丸4年が経過しました。その間、入院患者さんを診ることも手術をすることもありませんでした。月2回程度、細々と外来患者さんを診ているだけです。元々院長になる前から外来患者さんを近隣の開業医の先生に逆紹介していましたので、実際に県病院で診療する外来患者さんをかなり減らしていました。今はほんの数人診察するだけになりましたので、その時々で空いている診察室を使って診察しています。いわゆる放浪者です。このように患者さんと接する機会がめっきり減り、医療を施すこともほとんどなくなったため、医療の話題が尽きてしまいました。ということで、「外科医の独り言」についてはここで一旦筆をおかせていただきます。これまでありがとうございました。今後は新しいコーナーで様々な職種の職員が独り言をつぶやくそうですが、つぶやく人が見つからなかったら私がピンチヒッターで再登場することになっています。外科医も卒業したことだし、その時には「初老の独り言」で再デビューしようかと思っています。



院長／板本 敏行



院長／板本 敏行

ご意見箱

HPに医師の顔写真と学歴を載せて 貴重なご意見をありがとうございました。

かかりつけ医から県病院を紹介されたが何の情報もないまま診察されるのは不安になる。HPの医師紹介のページに医師の顔写真とともに、どこを卒業したかの情報まで掲載して欲しい。

この度は不安な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。医師情報の掲載について、院内で対応を検討したところ、医師の出身大学や年齢等は個人情報にあたりと判断されるため、HP への情報提供については、医師個人の判断に任せることといたしました。ご期待に沿えず申し訳ございませんが、より一層、患者さんに信頼される病院となるよう、取り組んでまいりますので、診療に関することでご不安なことなどがございましたら、遠慮なくスタッフにお声がけください。